

第 1 回 旧広島市民球場跡地委員会 議事要旨

1 開催日時

平成 23 年 10 月 24 日(月) 午後 6 時～午後 8 時

2 開催場所

市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室

3 出席者

(1) 委員

委員 22 名中 21 名出席、代理出席 1 名（蔵田委員の代理として谷村専務理事が出席）

(2) 事務局（市）

都市活性化局長、都市活性化局次長、旧市民球場跡地担当課長、担当職員

4 議事

(1) 委員長、副委員長の選任

ア 委員長について、委員の互選により山野井委員が選任された。

イ 副委員長について、委員長の推薦により下村委員が選任された。

(2) 旧広島市民球場跡地活用の検討について

市が資料 1 に基づき説明した。

(3) 委員会の運営方針の確認

市が資料 2 に基づき説明し、了承された。

(4) 意見交換

各委員が自己紹介を行い、委員会に参加するにあたっての思いや意見等を発言した。
発言要旨は別添のとおり

5 公開・非公開の別

公開

6 配付資料

資料 1 旧広島市民球場跡地活用の検討について

資料 2 旧広島市民球場跡地委員会運営方針（案）

参考資料 議会における質問及び答弁について

7 発言要旨

(1) 資料1「旧広島市民球場跡地活用の検討について」

天倉委員

別紙5の旧市民球場跡地の活用に関するこれまでの検討経緯について、この中で市民、民間事業者からの提案募集が377件あったということであるが、これは表に出ているのか。

杉山旧市民球場跡地担当課長

広島市のホームページに掲載しており御覧いただくことはできる。今後の検討の参考になるという意味で次回以降、どこかで皆さんにお示しできると思う。

天倉委員

すぐその後に民間事業者からの提案が26件あり、その中から決めた経緯ではなっている。その377件の意見というものが、本当にその26件の中にしっかり入っていたのかどうか、この辺りが知りたい。

杉山旧市民球場跡地担当課長

検討経緯にあるように、市民の皆様から377件、民間事業者から26件の提案をいただき、その377件の意見も26件の意見もそれぞれジャンルごとに市で分類をしている。それぞれリンクするような形で、最終的には球場跡地の活用のあり方ということで、同じような形でいくつかの分野に分類できるように整理し、最終的には民間事業者からの26件を絞り込んだということである。

下村副委員長

議論の進め方のイメージ図の中で、今回は課題の共有化ということでいままでの流れ、球場跡地は都市公園法に守られているということ、それからそれを崩す場合にはどうすればいいかということなど、そういう部分を共有した立地点にまず立つということが非常に重要な要素になる。その辺は市の方が丁寧に説明する必要があると思っており、そうでないとバラバラの意見になってしまうため、そこは何とかやっていただきたい。

それから、第1段階の1回、2回の中で跡地活用のアイデア出しというものについて、皆さんいろいろなアイデアをお持ちだろうが、外部の有識者の意見やアイデアを聞くことは考えているのか、そのための予算はあるのか。例えば安藤さんの意見を聞きたいと、どういう形でどういうものを今回作ればいいのかという意見を聞きたいとすると、お金はどうするのか、向こうは受けてくれるかどうか分からないが、広島の平和のために是非無料でやっていただきたいというお願いをする。そういう有識者の意見というものも、一つ非常に重要な要素になるのではないかと考えているが、その算段をどうされるのか。

それから、そういうものがなく皆さんの意見をまとめて、その意見を踏まえて市において球場跡地の活用方策を策定するという形になっているが、委員会は策定まではやらないとい

うことになるのかどうか。意見だけ出してこういう形でいかがでございましょうかという形で、市の方に投げかけて、市がこれがどうしても気に入らないから変えようという話になることはあるのか、確認させていただきたい。

杉山旧市民球場跡地担当課長

最初の制約条件のことについては、次回以降もしっかり議論していただきたいと思うし、市からも説明したいと思う。皆さんからいただく意見は、もちろん制約はあるわけだが、制約があるからといって意見を言っただけは駄目だということではなく、その制約を取り除くことも含めて、幅広い議論をいただければと思っている。

2点目の有識者の件であるが、現時点で有識者の意見を聞くための予算はない。今後、有識者から意見を聞いてみたいということで委員会の意見が一致すれば、今、予算はないが、できるかどうかを考えたいと思う。

3点目、この委員会のまとめの話であるが、副委員長が言ったように最終的な決定は市の方でと思っている。この委員会では一本にまとめるということではなく、多様な意見があると思うし、いろいろ、よいところや悪いところなど御意見をお寄せいただき、そういった意見を踏まえて最終的には市が決めると、決定するということを予定している。

打越委員

検討対象エリアについてお尋ねしたいのだが、旧市民球場は壊されるが、周囲にある施設は壊すという考えで提案などをしてよいのか。それともこれを残したままで考えていくのか。前市長の計画をゼロベースにするということは分かるのだが、全くゼロからやるということではこれだけ立場が違う人ばかりがいて、話が行ったり来たりでなかなか方向性が出てこないのではないのか。

私たちが言えば、青少年の健全育成から考えるいろいろな箱物もほしいし、教育環境もほしいが、若者として特に今言われてる親子の絆は、友達の絆より全く駄目、モンスターペアレントになっている親がたくさんいる中で、子どもを過保護にしている点もあって、絆というものをどういう面で育てていったらいいのか、そういう施設なんかもほしいのだが。

そう思うと、箱物は壊さないで検討してくれというのか、その辺りについて、ここを見るとハノーバー庭園も入っている。

ただ、検討といっても、ここの箱物はそのまま置いて検討してくださいというのか、副委員長が言ったが、有識者がいろいろ提案したこともあるし、平和記念公園からいろんな施設を見ると、前市長なんかは、経済の活性化は何もないようであった、あの案は。今回はそういう意味では、未来の青少年のにぎわいというのだが、経済も活性化していかなければならないのだろう。

それから、どこにいても広島は言われるのだが、子どもということ言えば、修学旅行生などもそうであるが、アクセスが悪く、バスなどの駐車場もないため、車窓で広島を通過するという方が多い。今日、旅行会社の人々が来ているが、そういう方にも大いに意見を言っただけは駄目だと思いたい。広島はとにかく何でもアクセスが後になる。いい例としては団地開発なんかみんなそうである、団地開発を許可して、アクセスが後になるから住民が困ってい

るところなんかが多い。話が少し横道にそれたようだが、提案しておく。

杉山旧市民球場跡地担当課長

直接的な答えにはなっていないかもしれないが、球場跡地の周辺にある施設として、青少年センターやこども文化科学館といった施設がある。いずれの施設も老朽化が進んでおり、建替時期がいつかは来る。青少年センターにいたっては、建替時期が到来している状況にある。

そういった意味では、この建物を必ず残さなければならないということは我々も思っていない。必ずこうでないとならないというものについて私どもは今、ある意味白紙状態であり、現地で建て替えること、移転させること、あるいは集約すること、更地にすること、いろいろな御意見があろうかと思うが、そういったことも含めて御議論いただければと思う。

立場がいろいろ違って意見が異なるだろうということは私どもも思っているが、これはこの20人に限らず、市民の皆さん全てに聞いたときにも、やはりいろんな百人百様の御意見があり、それはなかなか正直難しいものがある。ただ、そうは言いながら、今回集まっていた二十数名の方に御議論していただくことで、何らかの跡地活用の整理というものができればと考えている。

打越委員

いろいろな会議に出席しているが、今回の会議について、都市活性局が本気で取り組まれようとしているのだなという実感はわいた。これからは建設的な意見を出していきたいと思う。

山野井委員長

その他、何か聞いておきたいことはあるか。

まだ最初の段階であり、いろいろな思いがあるとは思いますが、今まで出していたいただいた意見を基に、もう少し掘り下げて皆さんに分かりやすい資料を提出していただければと思う。

その上で、やはり先ほど出ていた青少年センターや図書館、そういったものを含めた広島都心の活性化というものについて、それぞれの立場で検討し、何が本当に大切であり、何が本当に必要かというのを、いろいろな方面から議論していただき、御意見を出していただける場にしていきたいと思う。

(2) 資料2「旧広島市民球場跡地委員会運営方針(案)」について

山野井委員長

委員会の運営方針について何か御意見、御質問はあるか。

基本的には全て公開でやっていくということで皆さんよろしいか。

特に意見等はないようであるため、委員会の運営方針については原案どおり決定ということにさせていただきます。

運営方針に基づいて委員会を進めていく上で、検討グループの設置が承認されたため、この検討グループについては事務局とも協議し、その中身を詰めさせていただければと思う。

(3) 意見交換について

山野井委員長

本日、事務局からこれまでの検討経緯や今後の検討の進め方などについて説明があった。それらを踏まえ、これから意見交換に入りたいと思う。本日は第1回ということもあり、皆さんの自己紹介も交えながら旧球場跡地の活用策について御意見を聴かせていただければと思う。なお、会議の進行上の都合もあるため、一人3分程度でお願いできればと思う。それでは、まず最初に天倉委員の方からお願いします。

天倉委員

市商連の会長をしている天倉である。

私は中振連の副理事長ということもあり、後ろにこれまでの整備計画平面図があるが、随分この球場跡地問題については商工会議所と揉んで大体これでいこうというところで広島市の方にも提案させていただいた。ここに観光コンベンションビューローの専務理事がいるが、しっかりいろいろなコンベンション、その祭り広場のような形にしてやっていったらいいのではないかと思っていた。

この前も、中国新聞にこういう委員会があるんだということが出ていたが、ここへ来たら、いろいろな意見、全く同感だなという意見がいっぱいある。それもまた議論しながら順次進めていいと言っただけだと思いが、最初に打越委員から、方向性を決めてくれというお話もあった。そうしないとなかなか、どこでどういうふうな感じで、祭り広場にするなら祭り広場、建物を作って演芸文化会館のようなものを作って、また商工会議所の前会頭が考えていた劇団四季をそこに持ってきて中国、四国、九州から人を集めて活性化を図るんだという考え方など、いろいろあるので、今から皆さんで検討いただきたいと思う。

今井委員

広島市立大学芸術学部の現代表現領域というところで非常勤助教をしている今井である。

私は普段、こういうものを計画している立場ではなく、例えば、広島アートプロジェクトという名前で、広島市を中心に芸術文化活動を行っている。街中で展覧会を開催したり、地域の方と共同でアートの立場からまちづくりや芸術振興のことを考えている。

今回、旧市民球場の跡地について検討していこうということでこの委員会に入らさせていただいたが、随分前からここがどうなるかということについて興味を持っており、白紙になったと聞いて、私たち若者の方からも少し意見を聴いてもらえるチャンスかと思い、今日は楽しみにして来た。

今回、意見交換ということで意見を述べさせてもらおうかと思うのだが、私一人の意見ではなく、私の同僚やいろいろな方と話をしてきた上で今日は述べさせてもらいたいと思う。

この場所で何をするかということを考えるのではなく、この場所をどのような場所にしていくべきかということから多分話していかなければいけないと思うのだが、広島市の象徴的な場所であることがまず前提にあると思っている。

おそらく皆さんは、人が集まってにぎやかな場所というものが共通の思いであると思うのだが、この場所を象徴的な場所と私は言ったが、それがどういう場所であるかということ、原爆ドームを中心に考えると、原爆ドームの南側は、過去を振り返るような場所であると思う。要するに海外からもたくさん人が来られてこういうことを振り返るといふそういう場所であると思う。ではその反対側となる球場跡地という場所は平和記念公園のちょうど北側となる。こういう場所としては、未来を創造していく場所であるべきではないか、対になる場所となるべきではないかと考えている。そういう会議だとか、そういうことを考えて何をそこでしていくか、あの場所で考えていくべきなのではないかと考えている。そして、考えていく、あるいは創造していくことができればと思う。

つまりこれは、平和記念公園に来たら少し、どんよりとした気分になると思うが、それを反対側の場所に行って反対側から原爆ドームを見たときに、新しい広島の見え方だったり、未来を考えていける、そういう広島の新しい見方ができる場所になればよいと考えている。さらに、この球場跡地については、中央公園の一部ということもある。そして原爆ドームを挟んで平和記念公園というのがあり、二つの公園があるということで、それを一つにまとめて何か新しい公園になる、象徴的な公園になるのはどうかと考えている。それが方向性であるとか、広島市のおもしろい場所になるといったことが理想だと思っている。

では、具体的にその場所でどのようなことが行われるのか、何か施設を建てるのか、問題になってくると思うが、先ほど打越委員が言ったようにいろいろな分野の方が今日は集まっているため、自分たちの専門的なところから意見を言うことになる、希望もあると思う。私も芸術の立場から芸術施設ができたりとか、そういう安直な意見はもちろんあるが、そうではなく、例えばいろいろなNPO団体があるが、その代表が出てきて今後のことを考えていくなど、いろいろな方が集まる一つの場所というものを考えている。具体的ではないが、創造的な場所を作ることができればいいと考えている。

打越委員

広島市青年健全育成連絡協議会の打越である。

先ほど少し述べたが、新しい市長は若者中心のにぎわいというのを言っているが、公約でも、経済の活性化の中には、中小企業の販路の拡大やエコビジネスの振興、観光ビジネスの推進、私はこの三つは実現したら素晴らしいなと思っている。そういう意味ではその実現に向かって、何か微力ながら頑張っていきたいと思っており、若者ばかりにぎわっても経済の活性化がなかったのでは何もならないと思う。それから先ほど言われたように、いろいろな規制があることは聞いたので、それに当てはまるような構想をもちろん立てなくてはならないと思っている。

岡野委員

大手町一丁目町内会会長の岡野である。

大手町一丁目というと、原爆ドーム、爆心地というイメージが強いが、意外と戦前からの住民が多い町である。町内会は正確には 99 世帯、大体 350 人を擁している。事務所もあり、デパートもありという町で、日頃から相互交流の盛んな町内である。

跡地をどうするか考えるときに、皆さんもそうだと思うが、私も広島特性について、歴史あるいは自然、その中で培ってきたわけであるから、それは何だろうかとはやはり考えている。原爆ももちろんそうであり、原爆という被災という事実により、我々は負っている使命がある。

しかし、広島の歴史や自然、その特性というものが原爆で失われたわけではなく、その特性から離れて、もちろん大胆なまちづくりということも可能であるが、やはりこれまでのいろいろなまちのまちづくりというのを見ていると、表面ではよく分からないが、こうした特性を生かした形でのまちづくりというものが、大きな成功を納めているように見受けられてならない。広島の特性というのは、この狭い平地の城郭の周辺に、西国街道とも言うが東西の路線、それから南北、今の国道 54 号、そこで東西の山、それから南北に流れる川という明確な方向感覚でこの数百年広島というまちができてきた。今はそこそこに広い平野であるが、その半分以上は江戸末期から明治以降の工業、運輸等の産業振興の中でつくられた土地である。それ以前は、この城郭を取り巻いた、一言で言うなら、高密度に重層的につくられたと私は特徴付けて言葉にすることが時々ある。

この高密度に重層的なということに我々は慣れており、普段は格別には意識はしないが、しかし、これから人口が減る時代、あるいは高齢化していく時代というものを考えると、跡地の問題と離れているように見えるが、今こそ広島の特性、特徴というものを大切にしなければならぬときが来ていると思う。

最後に、跡地の活用ということになると、地元大手町一丁目ではいろいろな意見が出ている。シンボルタワーやスポーツスタジアム、大学誘致、コンベンションホールという意見、あるいは増設テント市場というような意見など、たくさんの意見がある。ただ 1 点、イベント広場は駄目という点では皆が一致している。先ほど、打越委員が言われたが、若者が、あるいはにぎわいが、経済の活性化にも寄与するような、本当にそのとおりであるが、現実的には、NHKの天気予報が、札幌、仙台と違ってずっと流れながら広島で飛ぶような、その広島の落日振りは非常に残念なものがある。

あくまでも大手町一丁目の皆様の意見として言うが、そうしたにぎわいをつくる、にぎわいをつくるとして人々が集う魅力のある場づくりという点からして、具体的には、次のような意見もある。例えば、まちを歩く人々、往来する人々にオープンな店舗、あるいは展示場、会議場、そういったものを含んだ複合競技場。あるいは、地域治水を考えそこを掘り込んで調整池を兼ねたような複合競技場、こういったものを望む声もあることを報告させていただく。

古川委員

大変制約条件の多いところであるため、なかなかないが、一つは、今、街中で失われつつある自然というものを組み合わせてできないものかと思う。子どもや高齢者の憩いの場として草むら広場のようなものがないか。

また、お金のかかることだが、この近辺を見ると、学習するところとして美術館が三つあるが、博物館がない。中国地方で萩や岡山でも立派なものがたくさんあるが、これらは学習するところに通じるわけである。それは以前から懸案になっており、維持費については経済の活性化につなげていけばいいのであるが、やはり修学旅行生が泊まらずに帰ってしまうと嘆いているにしては、何もないという感じがしている。

さらに、先ほどイベントは駄目だと言われたが、イベントをする際のトイレであるとか、あるいは電気やガスなどが常設されていない。そういう設備を常置していただきたいと思う。

谷村専務理事（蔵田委員の代理）

広島商工会議所からは今回、この委員会の委員に蔵田和樹副会頭が参加している。本日、都合がつかなかったため、専務理事の谷村が代理で出席している。広島商工会議所では、都心立地を生かすこの跡地については、都心の新たなにぎわいをつくるということ、魅力ある都心空間づくりをしていくということが大変重要であるということ認識している。先ほど検討経緯のところでも御紹介いただき、これまで何度か提案のような形のものを出させていただいた。

今回、先ほど御説明があったように広島市では、いったんこの利用計画は見直して、ゼロベースで新たな活用方をこれから策定していくということである。そのためにこういった各界各層から幅広く意見を聞くという委員会を設置していただいたのである。広島商工会議所としても、これを機に、跡地の活用策について改めて内部で部会、あるいは委員会といったいろいろな組織があるが、そういった場で様々な意見を改めて聞きながら、またそういった場はこの委員会での皆さんの御意見を伝えていきながら、改めて議論し検討していこうと思う。

いずれにしても、跡地の整備については長期的な都市づくりの視点から、周辺を含めた回遊性の向上ということもキーになると思うが、そういったものを踏まえ、今後、商工会議所としての意見を出せさせていただきたいと思っている。

小松委員

紙屋町二丁目町内会の副会長をしている小松である。

私どもの紙屋町二丁目の意見を集約し、意見を出していきたいと思う。広島市の中で一番活性化している紙屋町二丁目であり、跡地に対していろいろな意見があるが、大手町一丁目の御意見にもあったように、前市長の言っていた公園的なものは反対と皆が言っている。そして、それなりの商業施設的な人が集まる何か案を出していただきたいというのが意見である。大手町一丁目町内会の会長も言ったように、本当は公園に対して現実的のいろいろな問題はあろうと思う。

私は旅行会社をやっており、1週間前にシンガポールから帰ってきたばかりであるが、少しシンガポールとの比較で話をすると、広島は小さいまちのくせに、郊外に駐車場を完備したショッピングセンター、若しくはスーパーがありすぎだと思う。広島に対して私が見て思うのは、余りにも3時に閉めるビルが多すぎる。それによって、つまらない、楽しいまちに見えないと思っている。

要するに紙屋町二丁目は、今、そごうさんもおり、サンモールも運営しているが、一応運があるのである。町内会では、旧市民球場跡地が公園化、若しくは暗い状態を企画されるとどうなるのかという感じの悩みがある。シンガポールについてお話ししたが、広島の名前を聞いて10人に一人、二人ぐらいは名前が出てくるのである。なぜかと言うと、まちとして東京、京都、広島は有名なのである。しかし、観光のために宿泊したという人はほとんどいない。それはなぜかと言うと、皆さんも修学旅行で来られた方の意見を聞いていると思うが、バスの駐車場がほとんどない。世界遺産の横に観光の場所がないし、駐車場がない。広島市民球場の跡地について何か活性化する場所にならないかという町内会の提案の中に、余りにもごちゃごちゃするのであれば、全部ここをバス駐車場にしたらどうか。

そしてもう一つ、紙屋町の地下街に余りにもお客さんが少ない。やはり、お客さんが少ないというのは駐車場が少ないということや、いろいろな面の都市型の問題の一番は駐車場といますので、やはり駐車場を設定されるといいのではないかと思う。

意見はいろいろあり、個人的な考えもあるが、今後、やはり1番大事なのは若い人の意見を入れるために1回、広島市がインターネットで全国の市民から意見、旧市民球場跡地をどうしたらいいかと、世界遺産であるので、日本人の若い人の意見を1回入れたら、おもしろい意見もあると思う。

坂村委員

広島工業大学環境学部環境デザイン学科3年の坂村瞳である。

日頃の学校生活では、1、2年生の時は住宅の図面などを書いていた。3年生になり、ゼミ活動が始まり、現在は五日市のコイン通りのまちづくりに取り組んでいる。

私が今考えているのは、旧市民球場跡地はもう少し若者のアート活動、芸術や美術、歌、そういったものが繰り広げられるような場になればいいと考えている。

先ほどの今井委員と考えが通じるところがあり、原爆ドームを挟んだ向かい側と、過去を見るという言い方をされたが、あそこの空間はもっと明るい場所で夜になっても明るい、若者でにぎわう場所になればいいと考えている。また、4年生の設計の課題で、あそこの敷地が課題とされ、いろいろな案を先輩方が考えているので、その案を踏まえていろいろな提案ができたらいいいと考えている。

佐藤委員

中国地方総合研究センターの佐藤である。

私は地域づくりや都市計画の研究をしているが、広島市の都市計画について言うと、皆様がお感じのように、郊外に非常に魅力的な拠点がいくつかできて、それらは個性的な拠点で人を集めている。これに対して都心の衰退というものが進んでいると言うが、私自身は、都心というのは単に商業のための空間だけでなく、IT産業とか様々な都市型産業を育む、もちろん文化も育む、そういう空間だと思っており、非常に残念な思いをしながら、何とかそこに対応する都市計画はないだろうかということを考えていた。それについては、交通の面でもいろいろ考える必要があると思うし、今回の旧広島市民球場跡地というのは、本当に重要な拠点になると思う。これまで有効な対策を打つことはできなかったが、やり方次第で

は都心の能力を高める、非常に重要な役割を果たすことになるのではないかと考えている。

私はこの跡地利用を検討するに当たっては、様々なアイデアを出してそういった検討するという御説明があったが、やはりそれらを比較検討するための評価軸、この跡地利用計画において重視すべき考え方は何だろうかということを考えておく必要があると思っている。

私なりに現時点で整理していることとして、一つ目は、都心の活性化に具体的に役立つということである。私は、郊外の拠点というのはあくまでも目的を定めてそこに出かけていくと、そういう場だと思うが、都心というのは目的なしにぶらっと行く、そういう空間だろうと思っている。そういうふう役に立つようなものが都心と思っている。

二つ目は、観光交流人口の力をここに集めるということである。平和記念資料館の有料入館者数は昨年度だけでも130万人ということで、単純に一日平均にすると4,000人近くの人々が来ている。これは、国内外から来ている、もちろん都市圏などの人も含んでいると思うが、それらの人々にそこで休憩してもらい、飲食してもらい、買い物をしてもらう。そういう空間が必要だろうと思う。そのためには先ほども言っていたが、やはり交通機能ということも一体的に考えていく必要があると思う。

三つ目は、先ほどの御意見にもあったが、私も平和記念公園を祈りの空間、そして北側は新しい都市生活を創造するという念頭に置いて作られた中央公園だと思っている。広島市の都市計画の大きな特徴は、やはり平和記念公園と平和大通り、この二つの骨格であり、平和大通りに直交する平和の都市軸というのが戦後の復興計画の中に、平和記念公園のコンペの中で提案されている。御承知のとおり、慰霊碑、原爆ドーム、それらをつなぐ北に伸びる軸であり、この理念、考え方をうまく生かしていけないかと思っている。

四つ目であるが、やはりこの計画案が絵に描いた餅になってもいけないのではないかと考えている。広島市の財政力や民間の投資力、こういうことをやはり前提としながら、長期的な視点ということもあったが、段階的に考えながら前に進んでいくような、道筋が見えるようなプランを検討する必要があると思う。

杉野委員

広島市立大学国際学部国際学科3年の杉野である。若者の代表として積極的に意見を述べていけたらいいと考えている。

今回、日本のアニメーションは世界的に有名であることを踏まえて、提案させていただきたいと思う。日本のアニメーションは、世界的に有名で海外の人にもすぐに思いつくようなものもたくさんあると思う。昔はイメージとしては、余りよくないものだったが、これほど世界的に受け入れられていることは、日本の新しい文化として発信していてもいいのではないかと考えている。広島では、国際アニメーションフェスティバルが2年に1回の頻度で開催されており、そういった既存のイベントとも連携できるのではないだろうか。

跡地利用としては、マンガ喫茶とかインターネットカフェを作ればいいのかというわけではなく、近くにこども文化科学館があり、ここは体を使って科学を体感でき、しかも分かりやすく体感できる場所になっているため、新しい場所として体を使ってそうしたマンガやアニメーションの文化の部分を体感できる場所を作ったらいいのではないかと考えている。アミューズメントパークのようなものを作れば、若い世代、また、世界中から日本

のアニメを求めて広島に、新しい観光として人が多く集まるのではないだろうか。

また、ただ人が集まるだけではなく、今井委員や坂村委員も言われているが、アニメーションには芸術としての一面もあるため、若者にとってはマンガやアニメがもっとも身近な芸術だと言える。さらに、マンガやアニメは、一番若者が利用する、お金を使うもっとも身近な芸術であると思う。そういった商業的な意味でも、マンガやアニメーションを全面的に押し出し、それを売り出していける場所を提案させていただく。

寺西委員

弁護士の寺西である。広島修道大学のロースクールだったということで、広島修道大学から若者枠ということで推薦していただいた。普段は、刑事事件の弁護や離婚事件を取り扱っているほか、個人的に少年の育成にすごく興味があるため、少年事件を手がけたり、居場所のない少年たちの今後についていろいろな方と話をしたり、NPO法人を立ち上げて活動したりしている。

そうした関係で旧広島市民球場跡地というものの利用についても、先ほどの検討対象の中で青少年センターも含まれていて、ここは私の仕事の関係やいろいろなシンポジウムなどをするために結構利用しているのであるが、普段は若者があふれ、ダンスの練習や歌を歌ったり、様々な形で利用している。ここが老朽化しているのは承知しているが、そこを含めて検討するのであれば、若者の居場所を奪わない形で代替施設を作るなり、やはりもっと快適なものにしていきなり、若者に使いやすい空間ができればと思っている。

他方で、広島市の本当に中心的な場所であるため、経済の活性化という意味でもここは集客効果があるものを、人がたくさん寄ってくるものを作るべきだとも考えており、広いスペースなので必ず一つのものを作るわけではなく、いろいろなことが考えられると思う。平和記念公園に行った人が平和記念公園に寄ったのでもう帰ろうかみたいなことにならず、一緒に、近くにあって歩いていけるからここに寄ってみようと思えるような形での施設を作っていければと思っている。

先ほども何名かの方がおっしゃったが、商業施設も検討はもちろんできると思うが、郊外にたくさんショッピングモールのようなものができており、また、敷地の建築制限の関係でも、建てられるもの建てられないものがあると思うため、余りショッピング的なところでは、広島ならではの集客力が高いものは現実的に難しいのではないかなと思う。そうではないもので観光に来た人やいろいろな人がここに寄ってみようと思えるような施設が、まだ具体化はできていないができればいいと思う。

徳弘委員

基町地区社会福祉協議会会長の徳弘である。

旧市民球場跡地の検討について、基町の地域としては、そのエリア内にあり、日々生活している地域住民の期待と不安で複雑な気持ちでいる。戦後、広島市と県で計画された基町地区再開発事業で見事に蘇った町であるが、この事業完成後には、新しい門出、それから、それを象徴しているような町になった。また、市民の心の拠り所である旧市民球場の取壊しに伴う跡地の活用、その行く末について、どんなものができるのか、何ができるのかという思

いである。

正直なところ、地域では、そのエリアに位置するということで高齢者、青少年、若者、それぞれの立場の思いがあり、複雑な気持ちであるが、どこかの議員のようにあれも駄目、これも駄目といったことでは、前には進めないという考えである。これから先、この委員会はもとより、みんなでその場所に知恵を絞り、汗をかき、そういう場所だと私は思っている。

市民が納得のいく活用が望ましいと思うが、話を聞いていたら、なかなか難しい話がたくさん耳に入る。この場所は、特に政治、文化、スポーツ、その他平和のシンボルである広島の大事な場所であり、交通アクセスの問題等々、いろいろあるが、この辺も考慮に入れて、この問題を広島の活性化のために推進していただきたいと思っている。

西田委員

広島市女性団体連絡会議会長の西田志都枝である。出身母体としては広島市地域女性団体連絡協議会、一昔前は婦人会といていたが、各地区様々、隅々まで会員がいる女性会というものから出ている。連絡会議の方は17団体で構成しているが、出身母体の女性会の方は、広島市は1万人ほどの会員を持っているため、それぞれの意見が少し網羅して出てくればいいと思っている。

皆さんの御意見を聴いて、私は、実は前市長のときのこのプログラムにも出ていた。それで、ああすればいい、こうすればいいとたくさん言ったが、もう決まっているとわれ、大変残念な思いをした。観光バス駐車場については私も出した。回遊型の観光、循環しながら観光ができるという、観光バスの置き場がないとできないというような案も出した。単体で出すものであったため、なかなか聞いてもらえなかったような気もするが、今、皆さんの中から御意見があった平和記念公園の方は祈りであり、過去であるが、旧市民球場跡地は、これから未来に向かっての所にするべきだろうという感じは持っている。

その中で、未来というものは何であろうかと考えたときに、私どもが日々取り組んでいる子育て支援施設というものについて、大きなものが広島にはないということに気が付いている。同じ政令指定都市である北九州市には「元気のもり」といって乳幼児から幼稚園に行くまでくらいの子どもがたくさん来て遊べる施設がある。未来を担う子どもたちをつくるものも少しここの中にあるのではないかと考えており、提案したいと思う。女性会の者は皆、子どもを育てないで何が未来よとっており、是非そこは声を大きくして何か入れていただきたいと思っている。

これからは少子化であり、経済も厳しいため、夫婦共稼ぎということがまず、念頭にある。その中で、この北九州市にあるような「元気の森」のような施設があつて、そこへ常に若いお父さん、お母さんが子どもを連れて来るといようなものがないのではないかと考えている。「若い」というのは、独身の男性、女性だけではない。子育て中の若い夫婦というのが一番、そういう意味では適格なところであるのではないかと考えている。そういうところを提案したいと思う。

芳我委員

日本旅行業協会事務局長の芳我である。

観光業、旅行業の関係であるので、そういった部分から、少しでも意見を発表させていただき、今後の跡地利用に少しでも貢献できればと思っている。

既にいろいろな方から御意見が出ており、重複するが、やはり、三つほどポイントがあると私自身思っている。

一つ目は、やはり、街、都市の魅力づくりの重要性である。

二つ目は、これも出ているが、アクセス、それからバス駐車場もいろいろと問題があるので、そういった部分をやはり維持していかないと人が増えない。どうしても人数が少なくなってくるし、アクセスによってどんどん増えるという部分があるのではないかなという気がする。

三つ目は、結果的に経済の活性化である。経済の活性化がないと市が魅力のあるものになっていかないという気がする。

先ほど、シンガポールの話が出ていたが、以前本か何かで見たことがあるのだが、シンガポール政府観光局の方が言われていたのだが、日本への観光客の誘致は絶対自信があると、なぜかというシンガポールは夏しかないのである。日本は四季があり、それぞれ、非常に変わった魅力がある。勇気付けられるというか頑張らなくてはいけないという気がしている。

日本旅行業協会の立場を踏まえ、観光の多少得意な部分があると思うので、皆さんとともに、少しでもいい提案が作っていけるように頑張っていきたいと思う。

房安委員

広島修道大学人文学部人間関係学科 3 回生の房安である。学校では将来、教師を目指し勉強している。

今回の旧市民球場跡地の活用についての意見だが、広島市には川が多くあり、旧市民球場跡地の横にも川がある。やはり、川の景観を利用して旧市民球場跡地について前市長の内容になってしまうのだが、緑地化し、子どもやお年寄りの憩いの場として利用することができる場にしてはどうかと思う。

経済面を考えた場合、先ほども杉野委員が言ったようなアニメについて、僕もアニメが好きなのだが、日本のアニメは本当に世界に誇ることができるレベルのアニメであり、アニメが好きな人がアニメにかけるお金というものは凄まじい金額になっている。皆さんも聞いたことがあると思うが、オタクという存在もある。定期的なイベントとしてアニメのフェスティバルを開くなどこの広場を使ったアニメの発信を考えている。

また、僕は広島修道大学の大学祭実行委員会の実行委員長を務めている。小松委員が言ったような駐車場についての意見はすごく共感できるものがあり、駐車場がないと全然お客さんが来ない。修道大学は割と敷地が広く、駐車場も整備されてはいるが、大学祭当日は、グラウンドも駐車場として使用するような状況があり、公共交通だけでは、おそらくお客さんがかなり減るのではないかという感覚である。

駐車場を含めた交通整備というか交通面を拡張すれば市内も活性化するのではないかと思う。アストラムラインも広域公園で止まっており、五日市や廿日市市の方まで将来的にエリアを拡大することができれば、本通りにお客さんが足を運んでくれるのではないかという考えもある。

山口委員

株式会社広島バスセンターの山口である。私はバスセンターということで、広島、紙屋町のバスの拠点、あるいは、紙屋町交差点に面している路面電車といった、いわゆる交通拠点に位置している。旧広島市民球場の解体が、本当に無惨な形というか、非常に寂しい形でどんどん進んでおり、今、レフトスタンドの所はスタンドもなくなり、向こうが見渡せるような状況である。非常に痛々しいような感じが見え隠れするわけであるが、旧広島市民球場があった時は、バスセンター乗り場から、ナイターがあればナイターの照明が見え、観客の声援が大きく聞こえ、試合が終われば、一気に人の流れがバスセンターの方に来るというようなことがあったが、今はそういった雰囲気や光景が見られなくなって非常に寂しいという感じがしている。本当に、旧広島市民球場がなくなり、紙屋町周辺に元気がなくなったという感じがつくづくしている。

そういう面でこの跡地をどうするかというについては、やはり、元気が出る、人が集まる、そういった観点から施設を考えていく必要があるのではないかと思う。広島には平和記念公園や原爆ドームのような世界遺産、こういった非常に貴重な財産があって観光客もどんどん来るが、実際見てみると非常に観光バス、貸切バスの駐車場が少ないという状況がある。ある程度は確保されているようだが、お客を降ろして、運転手がぐるぐる市内を回っているという状況があるため、交通関係者ということでは、やはり、どういった施設ができようとも、観光バス等の駐車場について、一定の割合で何台か停めることができる場所を設けていただきたいという感じがしている。

山下委員

紙屋町・基町回遊性向上連絡協議会代表幹事の山下である。この硬い名前はなかなかイメージできない方もいると思うため、少しお話させていただくと、旧広島市民球場跡地に隣接する紙屋町・基町の事業者 13 社が集まり、平成 14 年からこの協議会ができ、お互いに知恵を出し合い、協力し合い、連携し合い、この広島市の中心部である紙屋町・基町がにぎやかになり、回遊性が高まるということを目指して取り組んできた。もう少し言うと、今年であれば、クールビズファッションショーを交差点の一部でやらせていただいたり、打ち水大作戦とかといったものにも取り組んできた。

これから議論が始まるわけであるが、活用策そのものについては、もちろん私どもも意見交換させていただくが、それと併せてやはり欠かせないものは、このエリアでの回遊性の向上だろうと考えている。この場所に来て、紙屋町エリアに来て、気持ちよく回遊でき、元気をもらって帰っていただきたいということで、跡地の活用策とセットで議論していかないと、このエリアそのものが活性化できないのではないかと考えている。

山本委員

私は、広島市文化協会の副会長と事務局長をしている山本定男である。

広島市文化協会とはなんぞやということになるかと思うが、平成 16 年 7 月に発足し、市内にあるいろいろな文化団体の横断的連携組織ということで作ったわけである。会長は商工会

議所会頭であり、郷土芸能、洋楽、洋舞、邦楽、文芸、美術といった六つの団体が入り、それぞれ部会長を置いている。

私の専門は合唱の方であり、広島県合唱連盟の名誉会長をしている。前回の検討からずっと関わっており、以前、私どもは文化創造の場という提案をさせていただいたと思うが、今回は少し変わり、若者中心としたにぎわいとなっており、非常にいいことだと思う。合唱分野では、小学校は今ないのだが、中学校、高校は非常に活発になっており、吹奏楽はものすごくある。

そういうことで、実際、私がやってきたことも踏まえ、どういう意見を出していこうかと思うところもあるが、個人的な意見ではなく、理事会に諮り広く議論しながら、一つの方向性を出していきたい。

吉長委員

公益財団法人広島市スポーツ協会の吉長である。この4月に公益財団法人ということでスポーツ界では、全国でも初めてということで右往左往しているが、御案内のようにスポーツ協会は昔の体育協会が母体であり、広島市から出資金を半分出させていただいており、体育協会と広島市のスポーツ施設の管理などをしてきたスポーツ事業団の二つの団体が一つになった団体である。

体育団体の代表ということで出ているため、実はサッカー場を作ってほしいということをして是非言うようにということもあった。しかし、それよりも今年、スポーツ基本法ができ、やはりスポーツをする上で原点になるのはやはり「遊び」の部分なので、子どもを含めて遊び場をしっかりと作ってやる方がいいのではないかという思いがしている。先ほど子育て支援という話も出たが、子どもが動くことにより、おじいさん、おばあさんも動いてくるということが昨今の情勢である。

今、あの地区を通ると、旧市民球場がなくなり、人の動きが全然なくなっているのを実感する。県立体育館によく行くが、ほとんど人が動いていないということであり、球場跡地をどうするかということもさることながら、中央公園全体を視野に入れて考えたいと思う。

中央公園は基町の高層アパートの前にあるのだが、そこには山がありそれによって活動が制限されているのは事実であり、そして、従前から、バレーボール場のように国に早く返さなくてはならない土地もあるが、これも引き取ってもらえないというようなこともある。中央庭球場については、市民病院の患者さんから、ボールを打つ音が早くからして困っているということもある。

また、市全域で考える場合に、西飛行場のこともあり、マリーナも草が生えてしまっているところもあり、何を拠点にするのかについて、市の方針がいないのではないかと考えている。悲しいかな、平成17年に出したものがまた元に戻っているような気がするが、最終的には市が決めると言っているので、知恵を出せば出すほど、空しさが出てくるような感じがするのが本音である。

渡田委員

観光コンベンションビューロー専務理事の渡田である。我々は、国内外からの会議や展示

会、いわゆるコンベンションの誘致や支援、それから観光客の誘致等を行っている組織である。

広島と言えば、宮島、原爆ドーム辺りが表に写真も出ているが、そういう主な施設しか出ていないため、広島に来ていただいている観光客の滞在時間や滞在日数を増やすよう、そういう新たなにぎわいづくりの場になればという気がしている。

確認方々お願いであるが、冒頭で事務局から制約条件の説明があり、かなり制約条件があるという話と、それとは別に別図で元の整備計画があり、その中に球場メモリアルとして一部残す絵があるが、これは制約条件に入っていない。先ほど、都市活性化局長から、若者を中心というのは、長期的な視点だということもあり、これからいろいろ議論して長期的な視点で考える場合に、何らかの形で残しておくということは必要であると思うが、本当にああいうものを将来にわたってあの場所にああいった形で残しておく方がいいのかどうか、他の形で残してあそこも含めて活用した方がいいのではないかという気もしている。そこも含めて確認方々、そういう意見も持ち合わせている。

下村副委員長

広島の中央部の 11 商店街と 9 大型店を連合した振興組合、略称で中振連と言っているが、その理事長になった下村である。基本的には私も当初からこの旧広島市民球場跡地の検討に携わっている。当初、広島の本通りは、反対運動もしたが、150 万人以上の人を集める算段を考えるということもあり、仕方がないということで今に至っている。先ほど言われたように、空しいところも多々あるが、今回、白紙の状態ということで、また松井市長の下で新しい提案ができればと思っているが、いずれにせよ、あそこはにぎわいを創出する場所ということをお願いしたい。

片や目の前に原爆ドームがあり、平和記念公園もある。先ほどから出ているように、そこらはいわゆる「祈り」、「静」の場所、そしてこちらの方は、今まで市民球場があり、それは復興のシンボルとして、「にぎわい」、「感動」、「喜び」、カーブが負けたときの「空しさ」、いろいろな、いわゆるそういうことができること自体が「平和」であるということであった。

「平和」を希求することが、広島のコンセプトになるのではないかとと思っている。広島は「国際平和文化都市」と昔から言われているように、「平和」が一つの切り口になるのではないか。

「平和」だけでは飯が食えないという意見もあったが、基本的にはやはり広島というのは、今は福島の方が上に行っているかもしれないが、世界の中で有名なまちであり、1 回は訪れてみたいというようなまちになっているわけである。その代わり、行くところが宮島で、来年は平清盛があるが、音戸の瀬戸に行って帰るような、また、萩の方に行って泊まって帰るというようなパターンで、広島になかなかステイしていただけない状況がある。それを何とかしたいということも一つの切り口として、中央公園を含めた形の紙屋町から八丁堀までの回遊性豊かなまちづくりということで、一つの切り口としては、「平和」ということを切り口としながら、その中でどういう形での広島を再現できるかというところを一つのコンセプトに考えながら、広島の都心ということを考えていきたいと思う。

同時に、広島のまちは先ほどから出ているように、駅前再開発から、西飛行場跡地、あるいは広島大学本部跡地、皆さんも御存じのように、広島大学本部跡地は、いろいろなプラン

があった。戦前から、いいプラン、戦後すぐにもいいプランが出たのだが、それが実行できていないというところが、広島のマイナスのポイントである。今の広島大学本部跡地には、マンションが建ってしまって、元々、あそこは遊創の森ということで、また、がんの研究所というような話など多々あった。郊外に大規模な店舗ができ、我々の商売としては非常に厳しい状況ではあるが、広島の場合は恵まれており、パルコを含めて人の流入はあり、今後、天満屋のビルにヤマダ電機が入る、パルコが新しくできるという話もあり、決してまだ空洞化はしていない。それはさておいて、そういう意味で言うと回遊性豊かなまちづくりについてのグランドデザイン、広島市をどういう形にしたいのかというものを市が先に出すべきであって、それに対しては我々が意見を言うこともできる。広島市では西風新都に新しい大規模な店舗が作られるが、我々としては、こんな馬鹿なことはない。広島の顔である本通り、中央通り、金座街の店がシャッター通りになり、他都市と同じような状態になってもらっては困るのである。それをわきまえて、広島のグランドデザインというものを市の方から出していただきたい。

さらに、先ほど言った広島大学本部跡地の問題を含めて、スピード感を持ってとにかくやるということをお願いしたい。スピード感が一番重要な要素の一つということで、この委員会も平成25年に一応方針が出て、そのときにはすぐに着工できるようなイメージでできればいいと思う。

それと同時に、観光ということで先ほども出ているが、広島という名前はよく知られている。今度、全国菓子大博覧会があるが、約80万人の人を集める予定である。そういう形で他県からのお客さんを集める、そして日本各地から人を集める、アジアから集める、今は中国からのお客さんも随分増えている。経済同友会、商工会議所が中国の大連に行って、広島に観光に来てくださいとお願いしている。そういう方々が広島に来たときに、広島らしさがそこに表現されており、あそこからお好み村まで本通りを歩いてというようなことも含めて、回遊性が豊かなまちになることを望んでいる。

山野井委員長

広島青年会議所の山野井である。

皆さんはいろいろな立場から出てきていると思う。先ほどから聴いていると、いろいろな立場から発言されている。あその場所は、点でできているものを線で結んで活性化するという事を考えなければならないと思う。

これまでの整備計画を見ると、中央がただ広場という形になっているが、例えばその周辺にある青少年センター、中央図書館、こども文化科学館など、そこに来た人がどう回遊していくのか、逆にそこでにぎわったものが他にどのように波及していくのかというような視点から考えると面白いと思う。

また、広島は水の都構想を掲げており、例えば青少年センターの裏に護岸を整備し、観光バスから今度はシーバス等を使い、マリーナホップや元宇品にアプローチできるようになれば、いろいろな魅力がある都市になると思う。

今後も我々の委員会が出た意見をしっかりと市へ伝え、市はそういったものをないがしろにするのではなく、しっかりと取り入れた旧市民球場跡地の利用計画を考えていただければ

と思う。まだまだ1年半かけて議論を続けていくと思うが、どうぞよろしく願います。

新谷都市活性化局次長

次回の会議日程についてであるが、次回は12月中旬から1月中旬にかけて開催したいと考えており、日程については、別途事務局で調整させていただきたいと思う。

山野井委員長

本日の議事は以上とする。